

「大阪アート&デザイン 2025」に出展 川田知志氏と共同制作する過去最大サイズの 新作ホーローアート作品を展示

システムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器メーカー・タカラスタANDARD株式会社（本社：大阪市城東区、代表取締役社長：小森大）は、2025 年 5 月 28 日（水）～6 月 17 日（火）、現代美術作家・川田知志氏と共同制作した新たなホーローアート作品を、大阪の街を巡りアートやデザインに出会う周遊型イベント「Osaka Art & Design 2025(大阪アート&デザイン 2025)」の会場である高島屋大阪店 6 階 POP UP STATION に展示します。



原画である川田知志氏のフレスコ画作品《太郎の色とカタチ×パブリック》（2023／撮影：表恒匡）

タカラスタANDARDは、アーティスト支援による社会貢献活動と「高品位ホーロー」の新たな価値創造を目的として、2022 年 8 月に「ホーロー×アートプロジェクト」を発足。アーティストの方とのコラボレーションによって自社にはない発想やチャレンジが生まれること、それによってホーローの可能性がこれまで以上に広がることを目的に、さまざまな取り組みを行ってきました。昨年は、大阪の生命力溢れる街で、個々の力が相互に作用し、思いがけない化学反応(シナジー)を引き起こすことを目指すという「大阪アート&デザイン」の思いに共感し、当社として初めて同イベントに出展。「ホーロー×アートプロジェクト」発足時から共同制作を行っている川田氏と制作したホーローアート作品を展示しました。

そして昨年に引き続き、今年も出展が決定しました。今年は、「ホーロー×アートによる“異空間”」をテーマに、川田氏がフレスコ画で描いた作品《太郎の色とカタチ×パブリック》を原画に、その一部を原寸大のホーローで再解釈した新作を展示します。ホーローパネルの釉薬等を焼成前に部分的に削り取ることで模様や凹凸を描く加飾技法「カキトリ」を従来以上の厚みで施す表現を川田氏自身の手で初挑戦し、インクジェットによる鮮やかな色彩と「カキトリ」による立体感、さらに過去最大サイズとなる幅 10m×高さ 2.4m の力強い美しさで、ホーロー×アートならではの魅力をお届けします。

本作品が展示される高島屋 6 階には 2025 年 4 月にオープンした「リビングフロア」もあります。キッチンや浴室、洗面化粧台、ホーロー壁装材などの当社製品も常設展示されておりますので、さまざまな生活シーンにおけるホーロー素材の可能性をご体感いただけます。

タカラスタANDARDは、これからも独自のホーロー技術を通じてより多くの人により心地よい暮らしをお届けすると共に、ホーローを通じた社会貢献活動に積極的に取り組んでまいります。



高島屋大阪店 6 階での作品展示イメージ

【参考資料】

■「Osaka Art & Design 2025(大阪アート&デザイン 2025)」概要

会 期 : 2025 年 5 月 28 日 (水) ～6 月 24 日 (火)
※当社の展示は 6 月 17 日 (火) まで

テーマ : Overlaps～重なる夢中～

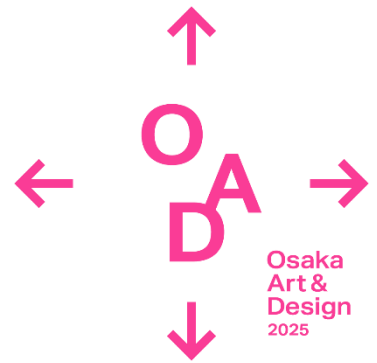
エ リ ア : 梅田、堂島、中之島、京町堀、本町、心斎橋、
なんば、阿倍野 他大阪市内各地

会 場 : オープンスペース、ギャラリー、ショップ、
百貨店、商業施設

公式サイト : <https://www.osaka-artanddesign.com/>

出展者名 : タカラスタンダード × 川田知志

展示場所 : 高島屋大阪店 6 階 POP UP STATION[6F1] 10:00-20:00



■現代美術作家 川田 知志氏について

1987 年大阪府生まれ。2013 年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。2019 年京都市芸術新人賞、2025 年第 43 回京都府文化賞奨励賞、第 2 回絹谷幸二芸術賞大賞を受賞。大学でフレスコ画を学び、伝統的な絵画技法と現代の造形素材を織り交ぜた独自の制作手法を探求しながら、都市の風景を記憶する壁画表現に取り組む。公共空間を発表の場で大規模なインスタレーションを展開し、企業や商業施設における委託制作も手掛ける。2022 年よりタカラスタンダードとホーローを用いた作品制作や素材研究を始め、2023 年にインクジェット印刷と「カキトリ」を取り入れた全幅 7.7m のホーロー壁画《松柏仁習 Learning from evergreens》を同社京都支店のエントランスに恒久展示している。近年の主な展覧会に、「築土構木」(ザ・トライアングル、京都市京セラ美術館、2024 年)、「MOT アニュアル 2024 こうふくのしま」(東京都現代美術館、2024 年)など。



[協力:アートコートギャラリー]

■出展作品について

川田氏が 2023 年に滋賀県陶芸の森 陶芸館ギャラリーで制作したフレスコ画《太郎の色とカタチ×パブリック》を原画に、ホーロー素材でリメイクした新作を展示します。デジタル化した原画の一部を原寸大でインクジェット印刷し、さらに厚みのある「カキトリ」を施しホーローパネルに焼き付け、幅 10m、高さ 2m40cm のアーチ状の作品に仕上げます。タイトルにある「太郎」とは、芸術の大衆化を目指し、1950 年代よりパブリックアートや量産品プロダクトのデザインを精力的に手掛けた岡本太郎氏を表しています。川田氏は岡本太郎氏の仕事や建築とアートとの関連性を考察しながら、アーチ状のギャラリー空間を活かしフレスコ画で本作を描きました。この度のホーローによる新作展開は、ホーローならではの加飾技術の更新だけでなく、産業と美術の関わりをさらに深める共同制作です。なお、本作のフレスコ原画は、OAD 会期と同期間に船場エクセルビル(「Re: Human — 新しい人間の条件」展、大阪市内)で展示されています。川田氏のユニークで多面的な作品表現をぜひ両会場でご鑑賞ください。

川田知志「太郎の色とカタチ×パブリック」展のパノラマ VR ツアーページ
<https://digital-museum.sccp.jp/panoramavr/kamiwazanippon-2>

「Re: Human — 新しい人間の条件」展 (Study : 大阪関西国際芸術祭 2025)
<https://osaka-kansai.art/pages/exh-re-human>



<タカラスタンダードとは>

1912 年創業。「水まわりって、大切だから」をブランドメッセージに、独自の「高品位ホーロー」技術を活かしたシステムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器を製造販売。より高度化、多様化、複合化するお客さまのニーズにお応えするホーロー技術のリーディングカンパニーとして、また住宅設備機器のトップメーカーとして、次世代を担う新たなホーローの可能性を追求し、快適な暮らしの創造を目指しています。

[設立 : 1912 年 5 月 30 日 (創業 112 年) / 売上高<連結> : 2,433 億円 (2024 年度) / 従業員数<連結> : 6,560 名 (2025 年 3 月末時点)]